



福江ロータリークラブ

創立三十五周年記念式典プログラム

あなたのロータリーの夢を追いつづけよう

とき 1999. 5. 8

ところ カンパーナホテル

ご挨拶

本日ここに、福江ロータリークラブ創立35周年記念式典を挙行するにあたり、公私ともにご多用の折にもかかわらず、村上幸三・国際ロータリー第2740地区・第六分区代理を始め、ご来賓各位のご臨席を賜り、まことに光栄に存じます。

当クラブは、長崎北ロータリークラブ・青山武雄氏を特別代表として、昭和39年3月12日、27名のチャーターメンバーにより創立、昭和39年5月4日、国際ロータリーへの加盟を承認され、今日に至っております。草創期のクラブ運営等につきましては、スポンサークラブ幹事・脇山慶一氏に、特に万般に亘るご指導ご援助を賜りました由、承っております。ここに、あらためて、お礼申し上げます。

爾來35年、当クラブのバナーに象徴されますように、紺碧の海に忽然として誕生いたしました、幸運を招く「血赤の珊瑚」は、歴代の会長、幹事、役員を始め、会員一人ひとりの燃える想いと、ロータリーの夢を追い続ける努力の積み重ねとにより、多くの価値ある歴史と伝統とを、築きあげてまいりました。これもひとえに、歴代ガバナーを始め、関係各位の懇切なご指導はもとよりのこと、地域における関係諸団体の皆様のご理解と、ご協力とによるものであり、深甚なる謝意と、敬意を表する次第です。

35年の歴史を経て、チャーターメンバーは5名となりましたが、創立の精神を受け継ぐ会員は現在66名に増強され、地域に密着した活力あるロータリークラブを目指して、微力ながら「ロータリーの綱領」の実践に努めてまいりました。

この間、創立5周年・「空港道路桜の植樹」、創立10周年・「鬼岳桜園造成」、創立20周年・「市内4公園の太陽電池時計・設置」、創立30周年・「市民体育館・記念碑設置」等の周年事業を実施するとともに、「離島在宅老人訪問」、「高校生職場実習」「市民球場植樹」「発展途上国への教材支援」等々の事業をおこなってまいりました。

昭和50年には、同一地域に複数クラブの設立が可能となり、スポンサークラブとして、日本における嚆矢でもあります「福江中央ロータリークラブ」の結成を支援いたしました。以来、クラブ相互の絆は堅く、緊密な連携のもと、共に今日まで発展してまいりました。本日も、尼崎会長を始め、会員全員の皆様のご出席を賜り、こころから感謝申し上げます。

当時、特別代表として活躍されました野田久雄氏は、昭和61年、第2740地区ガバナーに就任されましたが、同年11月、当地に1200有余のロータリアン並びにご家族の皆様をお迎えして、年次大会を開催できましたことは、当クラブの歴史のなかでも、最も輝かしい出来事でした。

平成4年、当クラブでは、福江中央ロータリークラブとともに、五島カントリークラブ・クラブハウス内に胸像を建立し、同氏のご遺徳を称える証といたします。

35周年記念事業といたしましては、地域の方々によりよい書籍を、より多くとの願いを込めて、福江市立図書館へ図書を寄贈することといたしました。

私たちは、創立35周年をひとつの節目として、R I 創立の原点に立ち返り会員相互の親睦をさらに深め、クラブの活性化に努めるとともに、一致協力、「ロータリーの夢」を追い続けてまいりたいと存じます。今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

申し遅れましたが、会員ご夫人の皆様方の、ひとかたならぬご理解とご協力とに、こころから感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

福江ロータリークラブ 会長 牟田宣昭

創立35周年記念式典

●とき 平成11年5月8日
●ところ カンパーナホテル

【式典】

12:00 登録 式典S・A・A 貞方利夫

13:00 点鐘

開式のことば 実行委員長 才津金人
国歌齊唱

ロータリーソング(奉仕の理想)齊唱

物故会員への黙禱

来賓紹介会長 牟田宣昭

参加クラブ紹介会長 牟田宣昭

会長式辞 牟田宣昭

来賓祝辞 第2740地区第6分区代理 村上幸三

長崎県知事 金子原二郎

福江市長 木場彌一郎

福江中央ロータリークラブ会長 尼崎玄之助

祝電披露 幹事 赤岩英博

感謝状贈呈 スポンサークラブ 長崎北ロータリークラブ

歴代会長

表彰状贈呈 20年以上の無欠席会員 中村和正

31年 中村和正

21年 平山禎己

21年 宇本功

20年 向原正雄

記念品贈呈 第6分区代理 村上幸三

チャーターメンバー 山下弥太郎 中村繁春

平山禎己 中村和正

才津金人

35周年記念事業報告 実行副委員長 才津為夫

35周年記念事業目録贈呈 会長 牟田宣昭

閉式のことば 実行副委員長 佐々野邦久

14:20 点鐘

〈敬称を省略させていただいております。〉

| | | | |
|-------|-----------------|---------|------------|
| 来賓 | 長崎県知事 | 金子原二郎 | |
| | 福江市長 | 木場彌一郎 | |
| | 福江市議会議長 | 川村嘉久男 | |
| | 福江商工会議所会頭 | 才津為夫 | |
| | RI第2740地区幹事 | 小宮康彦 | |
| | RI第2740地区第6分区代理 | 村上幸三 | |
| | 長崎北R.C会長 | 松山要 | |
| | 福江中央R.C会長 | 尼崎玄之助 | |
| | 五島椿ライオンズクラブ会長 | 田浦巖 | |
| | 国際ソロプロチミスト五島会長 | 井関淳子 | |
| | 福江青年会議所理事長 | 福本岳志 | |
| 参加クラブ | 長崎R.C | 東長崎R.C | 長崎出島R.C |
| | 長崎北R.C | 長崎西R.C | 福江中央R.C |
| | 長崎東R.C | 長崎中央R.C | 福江R.C |
| | 長崎北東R.C | 長崎琴海R.C | 福江R.C会員・夫人 |

【記念講演】

○とき 平成11年5月8日 14:30~15:10

○ところ 五島バスターーミナルホテル 2F

○演題 五島史雑感 福江RC的野圭志

【祝賀会】 カンパーナホテル 15:20~17:00

| | |
|--------------------|---------|
| 司会・親睦委員会 | 吉田泰之 |
| 開宴の挨拶 | 牟田宣昭 |
| 祝舞 | 若柳幸志穂 |
| 乾杯 第2740地区幹事 | 小宮康彦 |
| 郷土芸能 | 長手民謡保存会 |
| ロータリーソング(手に手をつないで) | |
| 万歳三唱 福江市議会議長 | 川村嘉久男 |
| 閉宴の辞 実行副委員長 | 小川義十 |

福江ロータリークラブ概要

創立 1964年3月12日（昭和39年）
R I 承認 1964年5月4日（創立順位612）
創立時ガバナー 嘉村平八
スポンサークラブ 長崎北ロータリークラブ
特別代表 青山武雄
区域 福江島一円（福江市、富江町、岐宿町、玉之浦町、三井楽町）
事務所 福江市末広町8-4 福江商工会議所内
例会場 福江市東浜町1-1-1 カンパーナホテル
例会日 金曜日（12時30分から）
チャーターメンバー 27名（現在5名）
現在会員数 66名
正会員 32名
シニア・アクチブ会員 34名
会員の年齢 平均 60.5才
最年長者：83才，最年少者：35才
80才以上（2名）
70才以上（18名）
60才以上（11名）
50才以上（24名）
40才以上（10名）
30才以上（1名）

福江ローターアクトクラブ

創立 昭和46年6月18日
解散 平成3年6月28日

福江中央ロータリークラブ

創立 昭和50年5月6日
スポンサークラブ 福江ロータリークラブ
特別代表 野田久雄

<主な事業>

奥浦慈恵院慰問

離島黄島訪問

鬼岳桜園植樹

1986年年次大会開催（野田久雄ガバナー）

5周年事業 ロータリー桜植樹

10周年事業 鬼岳桜園植樹 記念碑を寄贈

15周年事業 福江市少年サイクリング大会を共催

20周年事業 太陽電池時計塔を寄贈

25周年事業 離島在宅老人の集いを実施

30周年事業 福江市体育館落成 記念石碑を寄贈

35周年事業 福江市立図書館へロータリー文庫寄贈

<クラブ受賞>

1969～1970

年次大会で出席優秀クラブとして受賞

1974～1975

年次大会でロータリー財団から370地区で増加率1位、優秀クラブとして受賞
400%～1,300%

1975～1976

ロータリー財団から1,300%の感謝記念楯受賞

1976～1977

1977～1978

1979～1980

各年度年次大会でロータリー財団寄付優秀クラブとして受賞

1979・12月

「社会を明るくする運動」の協力に対し法務大臣から表彰を受ける

1980～1981

1981～1982

1982～1983

各年度年次大会でロータリー財団寄付優秀クラブとして受賞

1983～1984

年次大会で会員増強第6位で受賞

1984～1985

米山記念奨学会功労クラブとして受賞

1986～1987

当クラブ会員 野田 久雄君

国際ロータリー第274地区ガバナーに就任

年次大会

1986 11. 23～24

福江文化会館

1986～1987

年次大会で出席優秀クラブ賞、会員増強優秀クラブ賞、ロータリー財団寄付優秀クラブ賞（年間500%以上増加したクラブ）、ロータリー財団寄付優秀クラブ賞（年間6.000%にランクしたクラブ）、米山記念奨学会功労クラブ賞の五つの表彰を受ける。

1986～1987

R1会長賞を才津 主策会長受賞

1988～1989

ロータリー財団10.000%達成クラブとして、平成元年5月、地区協議会（長崎市）で受賞

1989～1990

地区ガバナー奨励賞受賞

1990～1991

米山記念奨学会功労クラブとして受賞、地区ガバナー奨励賞受賞

1991～1992

1992～1993

各年度、米山記念奨学会功労クラブとして受賞

1993～1994

1994～1995

1995～1996

「ロータリーの社会奉仕の生きた実践例として、この上ない貢献をした」として佐古ガバナー奨励賞を受賞

「会長賞プログラムに応え多大の模範的努力をされた」としてハーバードG・ブラウンR I会長賞を受賞

1996～1997

米山記念奨学会功労クラブとして受賞

1997～1998

ロータリー財団1人当たり寄付額第1位受賞

ロータリー財団クラブ当たり寄付額第2位受賞

米山記念奨学会功労クラブとして受賞

寄 付

1. ロータリー財団

ポールハリスフェロー 65名

井関敏則、清瀧実雄、野田久雄、伊達仲一、竹下利之右衛門、松本規純、嵩則雄、中村繁春、山下弥太郎、宇本功、池田敏郎、堀本一造、西津繁矢、真名井六三、今村伊之次、有福勇、中村和正、青山岩夫、山下昇、川口博正、才津金人、平山禎巳、福嶋良間、才津圭策、野田シゲ（野田久雄夫人）、佐々野邦久、北島千代福、山本鶴男、早瀬博道、山田和嘉、才津為夫、向原正雄、井関哲郎、安永克巳、井上晃、江川京次、才津卯喜男、長谷川庫一、才津祐造、福嶋義範、平村和男、赤岩英博、牟田宣昭、寺岡和雄、井原與、萩原寛、原田一則、的野圭志、松林行一、杉山元、野崎巖、川端和夫、清瀧誠司、田口功、山田卓男、西野稔、只熊清、山田洋彰、今村音博、貞方利夫、北川和實、今村甚吉、川尻伊之昭、古賀孝次、牟田恒昭、~~山口七太郎~~、~~谷川和啓~~、
~~川口保明~~、~~堤勝人~~、~~平博久~~、~~吉川一男~~、

準フェロー 8名

畠中一徳、松本繁男、吉田泰之、播本俊英、草野幸人、寺岡和雄、荒木道夫、北島博志 ~~森永一正~~、

メモリアル・コントリビューター 3名

松岡重雄、今村音博、才津憲生（才津卯喜男令息）、~~向原九助~~、~~草野邦子~~、

マルチプルポールハリスフェロー 21名

野田久雄（6回）、早瀬博道、才津圭策、山本鶴男、才津金人、山下弥太郎、嵩則雄~~宇本功~~、長谷川庫一、向原正雄（2回）、佐々野邦久（2回）、安永克巳、福嶋良間、北島千代福、才津祐造~~中村和正~~、~~江川京次~~、萩原寛、赤

岩英博、平山禎巳、牟田宣昭、喜岡和太郎、平本功。

財団寄付過去累計額 77,124.62 ドル (1994.4.30現在)

ボリオボラス寄付金

目標額 240万円 昭和63年3月30日完納

ベネファクター 1名

宇 本 功

2. 米山記念奨学会

米山功労者 19名

野田久雄、山下弥太郎、嵩則雄（2回）、中村繁春、宇本功、平山禎巳、才津圭策、中村和正、福嶋良岡、山下昇、才津金人、北島千代福、佐々野邦久、西津繁矢、才津為夫（2回）、嵩則雄（3回）、才津祐造、才津金人（2回）、才津卯喜男

準米山功労者 1名

山本鶴男（2回）

寄付累計額 11,651,806円 (1998年6月30日現在)

五島史雑感

日本の西端に九州がある。その九州の西の端が長崎県、長崎からさらに西へ100キロ、東シナ海の只中に五島列島がある。五島から西にはもう日本の領土も島も無く、行きつくところは中国大陸である。まさに五島列島は文化圏を遠く離れた日本最果ての地であることは間違いない。しかし1000年、2000年、3000年と歴史を遡れば当時世界に冠たる文化、文明を誇っていたのは中国であり、その中国に一番近い日本の領土が五島列島であった。五島から見れば今の東京は遙か東の僻遠の地であったのだ。有史前中国と五島との係わり合いは全く何も無かったのであろうか。昭和59年福江市戸岐で発見された土器は五島有史前の中国の春秋戦国時代（紀元前8～3世紀）の印文陶であった。「遣唐使より前に直航ルートがあった」とその年の12月発行のアサヒグラフに報道されていたが。

谷川健一先生は著書「黒潮の民俗学」で『古事記、日本書記にいうイザナギ、イザナミのミソギした「筑紫の日向の橋の小戸」のタチバナ、ヒムカ、オドの地名が福江島に集中して見出されることを否定できない。五島の地名が神話になぞらえてつけられたとは考えにくい。むしろその逆である』と書いておられる。又、年代不詳であるが古代祭祀場の神籬（ヒモロギ）の巨石が福江市の山に多く見うけられるのも不思議である。戦前五島でヨサリ、ジンベン、ガンギ、エンバなど日本の古代語が日常の会話に使われていたが、これは一体どういうことを意味するのだろう。

さらに興味深いのはキリスト教日本布教が始まって14年後、来日したフロイス宣教師の「日本史」の中に「そこの住民は海の只中の孤島に離れ住んでいるにもかゝわらず、言葉が洗練されていること、相互間の交際、挨拶、礼儀作法を守ること、身なりが立派なことなどにおいて彼等が取引をしている他の諸国の人々になんら劣りはしない」と450年前の五島人像が書かれていることだ。このことは、西の国から日本への文化の玄関として五島がなにか文化の洗礼を受けていた島であったことを物語るものではなかろうか。

こうして古代、中世、近世と多彩な海の歴史を歩いていく五島人であるが、その根底にある人間性、島人たちの人間を作り育ててきた美しく豊かな自然との係わり合いも忘れてはならない。

2000万年前アジア大陸から引き裂かれ、北西に傾き陥没していく沈降性傾動地盤、さらに火山活動を伴って五島列島が形成されていく。長い海岸線に溺れ谷、海蝕崖を作り、西岸を北上する暖流に洗われて暖地性の植物が繁茂する。

2400年前、父親の腕の中に一歳半の子供を抱かせて葬ってやった心暖かい島の縄文人、寛政年間外海地方から五島に移住して来た多くの隠れキリストンたちは「五島へ五島へと皆行きたがる。五島やさしや土地までも」と歌った。学問でも宗教でも教えられずとも、美しく豊かな自然がこうしたやさしい心を持った島人を作り育ててきたのではなかろうか。

弘法大師空海は、「それ境は心に随って変ず。心汚れれば境にごる。心は境を追って移る。境静かなるときは心朗かなり。心境宴会して道徳はるかに存す。」と書き残している。

人間の心は自然環境によって移り変わっていく。環境が豊かで静かである時にそこに住んでいる人の心は朗かになり、澄んでくる。人間の心と自然とはつながり、あらゆるものは命を共にしている。そのことを道徳という。こういった意味である。

五島の歴史は奥が深い。これまで研究してきた五島史はもっと広く、深く見る必要がありそうである。

（福江クラブ会員 的野圭志記）

式典出席者名簿

| | | |
|-------------------|-----|-----|
| 長崎県知事 | 金子 | 原二郎 |
| 福江市長 | 木場 | 彌一郎 |
| 福江市議会議長 | 川村 | 嘉久男 |
| 福江市商工会議所会頭 | 才津 | 為夫 |
| R I 第 2740 地区幹事 | 小宮 | 彦三 |
| R I 第2740地区第6分区代理 | 上村 | 幸要 |
| 長崎北 R C 会長 | 松山 | 玄助 |
| 福江中央 R C 会長 | 崎浦 | 巖之 |
| 五島椿ライオンズクラブ | 田嶺 | 志子 |
| 国際ソロプロミスト五島会長 | 井関 | 淳子 |
| 福江青年会議所理事長 | 福本 | 志健 |
| 長崎新聞社五島支局 | 榎本 | 了 |
| 朝日新聞社福江通信局 | 山屋 | 公健 |
| 毎日新聞社福江通信部 | 山山 | 了 |
| 西日本新聞社福江通信部 | 藤山 | 昭男 |
| 読売新聞社福江通信部 | 伊東 | 壮次郎 |
| N H K 長崎・福江通信部 | 西川 | 哲夫 |
| K T N 福江通信部 | 中村 | 永九 |
| N B C 福江通信部 | 江川 | 順一 |
| N C C 福江通信部 | 梶山村 | 王紅 |
| N I B 福江通信部 | 中伊東 | 壮次郎 |
| 福江ケーブルテレビ(株) | | |

| | | | | | | | |
|-----|----|------|---|---|---|---|----|
| 長崎 | R | C会 | 長 | 原 | 田 | 介 | 要 |
| 長崎 | R | C会 | 長 | 松 | 山 | 明 | 彰 |
| " | | 幹 | 事 | 福 | 島 | 三 | 正 |
| 長崎 | R | C会 | 長 | 田 | 中 | 亨 | 太郎 |
| " | | 幹 | 事 | 高 | 橋 | 興 | 興之 |
| 長崎 | 北東 | R C会 | 長 | 宅 | 島 | 矩 | 太 |
| 東長崎 | R | C会 | 長 | 井 | 形 | 豊 | 信 |
| " | | | 事 | 松 | 浦 | 信 | 俊 |
| 長崎 | 西 | R C会 | 長 | 古 | 賀 | 定 | 定 |
| " | | | 事 | 森 | 田 | | |
| 長崎 | 中央 | R C会 | 長 | 小 | 賀 | | |
| " | | | 事 | 志 | 崎 | | |
| 長崎 | 琴海 | R C会 | 長 | 塚 | 川 | | |
| " | | | 事 | 長 | 岡 | | |
| 長崎 | 出島 | R C会 | 長 | 友 | 本 | | |

| | | | | | | | | | |
|--------|----|-----|-----|-------|------|----|----|----|-----|
| 福江中央RC | 会長 | 尼崎 | 玄之助 | 美弘典 | 実郎 | 一雄 | 昭一 | 右雄 | 三 |
| 副会長 | | 平井 | 博美 | 和吉 | 市洋 | 勝忠 | 剛洋 | 秀浩 | 壽加夫 |
| 幹事 | | 平野 | 直幸 | 原島崎坂村 | 木洲 | 中尾 | 本田 | 山本 | |
| | | 有今 | 三喜 | 伊植尾北 | 佐々 | 高田 | 中橋 | 林平 | 舛 |
| | | 浦樺郡 | 繁泰 | 高田 | 佐 | 中 | 橋 | 林 | |
| | | 堺清 | 重末 | 中 | 本 | 尾 | 本 | | |
| | | 高坪中 | 大和 | 頭崎家井 | 中 | 田 | 田 | | |
| | | 畠平 | 律盡 | 司 | 山 | 原 | | | |
| | | 藤 | 嶋七 | 中山 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | 石今江川郡 | 坂庄竹富 | 西幡 | 平藤 | | |
| | | | | 道 | 富 | 西 | | | |
| | | | | 島家 | 泰 | 幡 | | | |
| | | | | 水橋内 | 重 | | | | |
| | | | | 尾中 | 末 | | | | |
| | | | | 田中 | 大 | | | | |
| | | | | 田 | 和 | | | | |
| | | | | | 律 | | | | |
| | | | | | 盡 | | | | |
| | | | | | | | | | |

登栄泰勝實

信良

手洗瀬下本菜
御梁山山若

藏治郎登男

耕福太一信

吉展哉一正

一秀拓太隆

野脇口中田
又宮山山吉

福江RC会長

福江RC副会長

福江RC幹事

牟田宣昭人

牟才赤人

牟才赤人

牟田津金英

牟才赤人

已雄副男岡造昭一男則元功男彰寛治英郎志男根
禎則千鶴良祐恒行和一卓洋光俊一博一石

山島本嶋津田林村田山口田田原山本崎島川詰
平嵩北山福才牟松平原杉田山山萩平播真北有橋

春策道助昇夫巳次吉隆夫雄十穩啓博之次次治治

繁圭博七利克京甚和和義和音泰孝則健栄

村津瀬口下方永川村田端岡川野川村田賀村中村

中才早山山貞安江今吉川寺小西谷今吉古岩田中

牟田津金英

牟田津金英

牟田津金英

牟田津金英

牟田津金英

牟田津金英

牟才赤人

牟田津金英

牟才赤人

福江RC会員夫人

| | | |
|---------|---------|---------|
| 中 村 玲 子 | 才 津 重 子 | 早 瀬 美和子 |
| 向 原 智津子 | 山 下 益 子 | 牟 田 悅 子 |
| 佐々野 高 子 | 安 永 百合子 | 牟 田 貴美子 |
| 松 林 マルエ | 平 村 恵津子 | 原 田 香 子 |
| 川 上 敏 子 | 小 川 清 子 | 山 田 恵 子 |
| 赤 岩 富美子 | 北 川 マツエ | 萩 原 千枝子 |
| 只 熊 多 江 | 平 山 悅 子 | 草 野 邦 子 |
| 吉 田 悅 子 | 播 本 ゆみ子 | 荒 木 郁 子 |
| 真 崎 圭 子 | 出 田 美智子 | 有 川 シマ子 |

奉仕の理想

ほおし のりそーにつど
いしともーよ みくににさき げんわれ
らのなりわい のぞむ はせかい のくお
んのへいわ めぐーるはぐるまい やか
がやきて とわに さかえよ われ
らのロータリー ロー ターリー

奉仕の理想

元京都RC
作詞 前田和一郎

元東京RC
作曲 萩原英一

奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我等の業なりわい

望むは世界の久遠の平和
めぐる歯車いや輝きて

永久に栄えよ

我等のロータリー